



碧南市民病院 ほほえみ



NO.41

平成26年1月1日発行

発行：碧南市民病院

病院長 梶田 正文

編集：地域連携委員会

新年のご挨拶

病院長 梶田 正文



新年あけましておめでとうございます。

一昨年暮れの政権交代によって「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」が行われました。その効果もあって、株価の上昇、大手企業の業績向上、さらには一部の企業では従業員のボーナスの増額がなされました。まだまだ景気の回復を広く国民の皆さんが実感できるところまでには至っていないと思われませんが、何となく日本の景気が良くなってきたという雰囲気を感じ取るようになったのも事実です。また、2020年の東京へのオリンピック招致に成功したことや、富士山の世界遺産登録など明るい話題が出てきたことは大変にうれしく思います。

このような状況の中で、今年4月に消費税の5%から8%への増税が決まりました。消費税の増税の影響は様々なところに影響があると思いますが、医療の分野も無関係ではありません。現在、病院が診療を行うには、医薬品、医療材料、医療機械など様々な物品を購入しなければなりません。購入する際には消費税を支払っています。しかし保険診療は非課税となっているため、患者さんから消費税を受け取っていません。その結果、病院が消費税分を負担することになります。その一部は診療報酬（医療行為や医薬品に対する公定価格）に上乗せされていましたが、小泉内閣の時代には診療報酬が切り下げられ、事実上、上乗せ分は消滅してしまっています。碧南市民病院では、平成24年度に約1億8千8百万円もの消費税を負担しました。消費税が8%になると病院の負担は約1億円増えると推定しており、今後8%から10%に増税されれば病院の経営にさらに大きな影響を及ぼします。この医療機関が消費税を負担している現状を皆さんにも理解していただき、早急に医療の消費税問題を解決していただきたいと願うものです。

さて、昨年8月に社会保障制度改革国民会議の報告書が発表されました。日本の医療費の対GDP比は、現在、OECD諸国の中では中位にあり、世界一の高齢化水準を鑑みれば決して高い水準にあるとは言えません。しかし一千兆円にも上る公的債務がある状況下で、今後さらに高齢者の医療ニーズが高まるために、医療提供体制の改革で対応しなければなりません。国民がこれまで享受してきた日本の皆保険制度の良さを変えずに守り通すためには、医療そのものが変わらなければなりません。「必要なときに必要な医療にアクセスできる」という意味でのフリーアクセスを守るためには、緩やかなゲートキーパー機能を備えた「かかりつけ医」の普及が必須です。そして医療も、病院完結型から地域完結型へ変わらなければなりません。このようにこの報告書は今後の医療の道筋を示しており、私たち医療関係者のみならず広く国民の皆さんに読んでいただきたいと思っています。

さて、平成26年度の当院の研修医は医科5名、歯科1名がマッチングしました。現在なお大学からの医師の派遣には多くは期待できませんが、これらの研修医が救急外来などで大きな力となっており、研修終了後も碧南市民病院を支えてくれることを期待しています。皆様には研修医の指導および教育に、ぜひともご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

この1年が皆様にとって良い年でありますように願っております。

新任医師 紹介

- ①名前 (かな)
- ②所属
- ③前任地
- ④ひとこと



- ①山蔦 久美子 (やまつたくみこ)
- ②呼吸器内科
- ③後期研修医
- ④12月から非常勤から常勤となりました。患者様の生活がより良いものとなるよう診療に当たっていきたいと思います。よろしくお願いします。



- ①文 麻美 (むん まみ)
- ②歯科口腔外科
- ③愛知学院大学
- ④地域の皆様のお役に立てますよう、日々の診療をがんばっていきます。よろしくお願いします。

平成25年度 患者満足度調査（病棟）結果

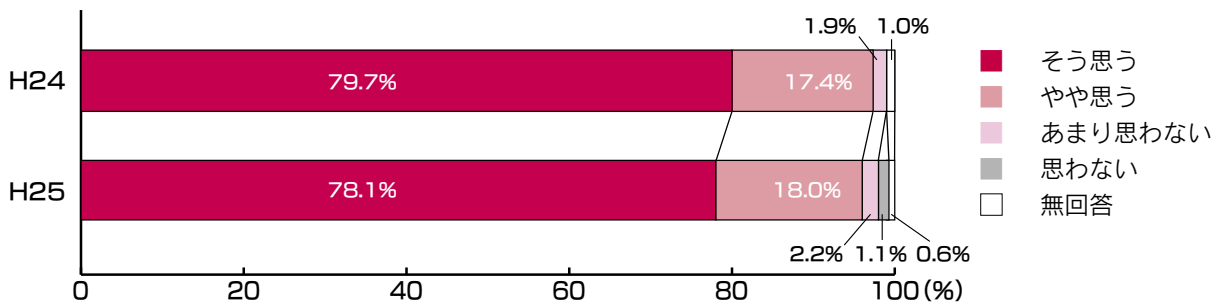
今年度は、9月2日から、各病棟でアンケートを実施しました。178名もの方に回答いただきました。ご協力ありがとうございました。

昨年度と比較し、肯定的な回答が減ってしまった項目もありましたが、自由意見では、「看護師、スタッフの皆さんの対応は非常に良く、特に申し上げる苦情はございません」「人生初の入院でしたが、親切にして頂きありがと

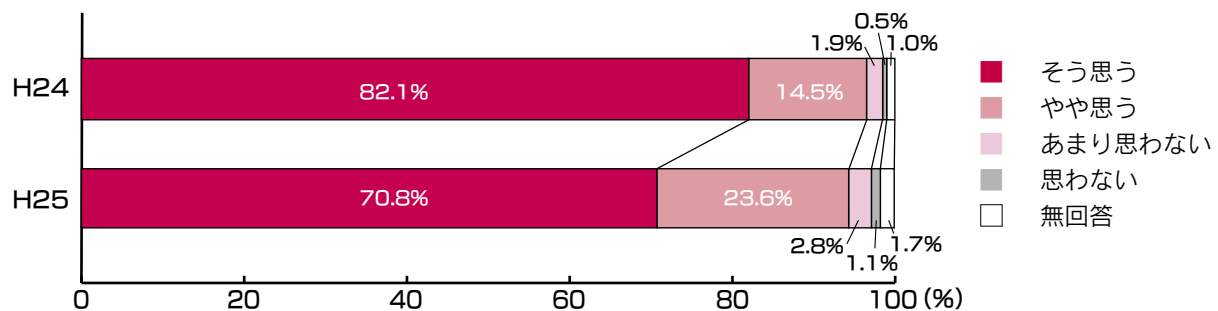
うございました。また入院してもいいかなあ〜と思いました」「大変親切でお世話になりました。ありがとうございます」などお褒め、励ましの言葉などをいただきました。

このことを反省、励みとし、よりよい「温かな心のこもった医療の提供」を目指し、全職員で努力してまいります。

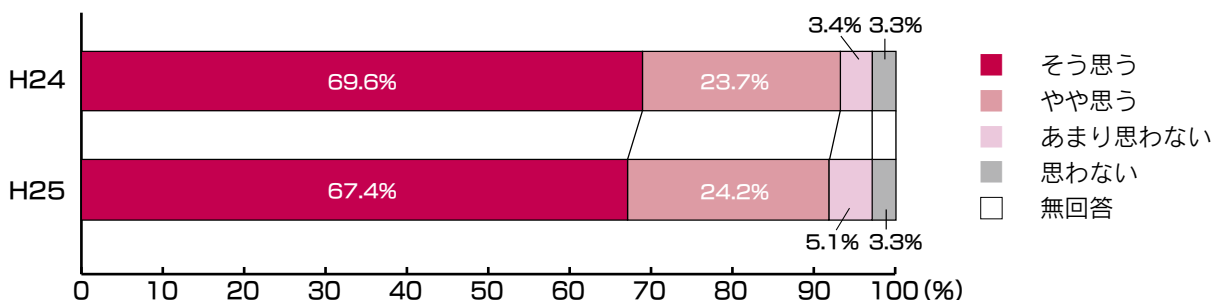
●医師は検査や治療について分かりやすく説明してくれる。



●何か苦情があったときには気兼ねなく看護師に言える。



●私や家族の意見が尊重されている。



（平成25年度 患者満足度調査（病棟）結果 一部抜粋）

もみじサポート ネットワーク活動中！！

はじめまして。もみじサポートネットワークについて紹介します。

もみじサポートネットワークは、病院や施設を利用する高齢者の方の継続看護を目的に、顔の見える関係づくりをして、看護相談やケアの知識・技術の習得を互に行うための市民病院周辺の医療、介護にたずさわる方々の“学習の場”です。



現在は、奇数月の第2土曜日の14時から16時に開催しています。学習の内容は、開催当初は認定看護師による講義形式でしたが、今ではもみじネットワークの成熟も相まって事例検討がほとんどです。

先日11月9日に開催された事例検討は、緩和ケアを中心に行いました。発表者は、4階西病棟のはつらつ若手ナースと3階西病棟のベテランナースです。自分達の行ってきた看護について掲示し、患者さんの言葉をどう受け止めるか、家族への支援はそれでよかったのか、どのような考え方があるのか、倫理的な



視点は見えていたのかなど、自分の考えを自由に話し合い充実した学びの時間を得ることができました。その話し合いはグループワークですが、施設の違う者同士で話すことで、新しい視野、違った見方が出てきます。そこが実にいいところだと思います。ナラティブという言葉をもさに実践していると思っています。

また知らない者同士でも、なぜか和気あいあいと話をしています。これは、同じ医療に携わる者としての苦勞がわかりあえるからだと思います。先日の会では、医師の参加もありました。前回には、リハビリの作業療法士さんや施設からはケアマネージャーさんの参加もありました。多職種交流により横のつながりが持て、わからないことも緊張なく尋ねることができれば、とても有意義だと思います。

今までの参加施設は、在宅ケアセンター、高須病院、小林記念病院、新川中央病院、西尾病院、川口結いの家、高浜安立荘、小川の里、西尾訪問看護ステーション、しんかわ訪問看護ステーションなどです。これからの医療は、病院だけでの完結はあり得ないでしょう。治療の場から生活の場へのフォローを地域で行い、ケアについて互いに学びあう場所として、このもみじサポートを利用していただけたら幸いです。参加自由です。皆さんの参加を待っています。みんな！がんばるぞ！！

副看護部長 清政 一二三

血管撮影装置が新しくなりました！

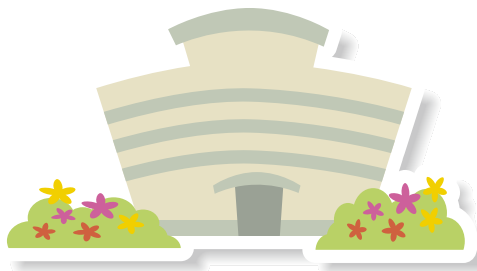
平成25年12月より、最新の血管撮影装置が稼働しました。血管撮影装置とは、体内の血管を造影剤という薬を使って映し出すことができる装置です。今回、稼働を始めた装置は技術の進歩によって、以前使っていた装置よりも少ないエックス線量で鮮明な画像を映し出すことができます。また、検査時間の短縮や造影剤の量を少なくすることも期待できます。

この装置を使って、心筋梗塞のように心臓に栄養を送ったりしている血管が細くなったり詰まったりした場合に、カテーテルと呼ばれる細い管を患部まで進め、血栓を取り除いたり血管を拡張したりして治療することができます。心臓だけでなく、頭

の中にできた動脈瘤にコイルと呼ばれる金属をつめて脳出血を防いだり、体の中にできた腫瘍につながっている血管を見つけ、直接抗がん剤を入れ治療をしたり、ほかにも様々な検査・治療を行っています。

これからも、われわれ医療スタッフ一同は最新の技術を取り入れ、患者さんにより安全で安心できる検査・治療を行えるよう努めてまいります。

画像診断室



【向こう3ヶ月間の行事予定】

日 時	行 事 名	場 所
1月28日(火)	いきいき健康講座「摂食嚥下機能障害について」	1階エントランスホール
2月 3日(月)	糖尿病教室「あなたが変わる運動のコツ」	2階講義室
2月 6日(木)	市民献血	正面玄関
2月28日(金)	はるかぜ音楽会	1階エントランスホール
3月10日(月)	糖尿病教室「合併症を防ぐカギ」	2階講義室